

(仮称) 広島中央地域連携中枢都市圏の形成に向けた取組について

1 趣旨

人口減少・少子高齢化が今後更に進行し、住民が安心して快適に暮らしていくための生活基盤や行政機能の低下が懸念される中、中核市に移行した呉市が近隣市町と連携して経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化及び生活関連機能サービスの向上を行うことにより、人口減少・少子高齢社会においても一定の人口規模を有し活力ある社会経済を維持していくための拠点的形成するため、呉市を中心都市とする連携中枢都市圏（（仮称）広島中央地域連携中枢都市圏）の形成に向けた検討を進めていきます。

2 圏域の形成に向け検討を行う市町

広島県中央地域の市町相互の緊密な連携を図ることにより地域振興と住民福祉の向上を図ることを目的として設立されている「広島県中央地域振興対策協議会」を構成する市町（呉市、竹原市、三原市、東広島市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町及び大崎上島町の5市5町）が連携して、圏域の形成に向けた検討を行います。

図 圏域の形成に向け検討を行う市町の位置、人口及び面積



市町名	人口 (H22国勢調査)	面積 (H26国土地理院)
呉市	239,973人	352.80K㎡
竹原市	28,644人	118.23K㎡
三原市	100,509人	471.54K㎡
東広島市	190,135人	635.16K㎡
江田島市	27,031人	100.74K㎡
府中町	50,442人	10.41K㎡
海田町	28,475人	13.79K㎡
熊野町	24,533人	33.76K㎡
坂町	13,262人	15.69K㎡
大崎上島町	8,448人	43.11K㎡
合計	711,452人	1,795.23K㎡

3 圏域の特徴

当該圏域は広島県の中央部に位置し、広島県の国内外の空の玄関口である広島空港を有するとともに、造船、鉄鋼、自動車、電気機械に代表されるものづくり産業、海軍ゆかりの歴史的な建造物や文化が漂う伝統的な町並み、良質な天然水を利用した地酒、瀬戸内海の恩恵を受けた海産物、熊野筆などの伝統工芸品等、数多くの地域資源を有しています。

圏域内の市町が連携し、こうした地域資源が持つ魅力を更に高めることにより、圏域全体の活性化と住民サービスの向上につなげていきます。

4 検討内容

連携中枢都市圏の形成に当たっては、圏域全体の経済をけん引し圏域の住民全体の暮らしを支えるという観点から、次の三つの役割が期待されています。各市町の特徴、地域資源や課題を十分に踏まえながら、今後連携して取り組む施策等について市町間で協議していきます。

なお、当該検討については、国（総務省）の「平成28年度新たな広域連携促進事業の委託に関する提案募集」への応募を行っており、6月中に採択団体が公表される予定となっています。

(1) 圏域全体の経済成長のけん引

- ア 産学官連携による新製品・新技術の開発，新産業の育成
- イ 圏域の特産物（かき，筆，地酒，かんきつ類等）のブランド力向上を通じた地域経済の活性化促進
- ウ 圏域内の観光資源を活用した広域観光ルートの開発，周遊・滞在型観光の推進 ほか

(2) 高次の都市機能の集積・強化

- ア 幹線道路網の整備促進（東広島・呉自動車道，休山新道等）
- イ 公共交通の機能強化に向けた取組（JR呉線等）
- ウ 圏域内に集積する高等教育機関等との連携による人材の育成 ほか

(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

- ア 住民サービスの維持・向上（生活交通の維持，公共施設の相互利用等）
- イ 交流の促進と活力の創出（移住・定住の促進，婚活推進等） ほか

5 今後のスケジュール（案）

(1) 平成28年度

- 連携して取り組む施策の検討（市町協議）
- 有識者による懇話会の設置，意見聴取

(2) 平成29年度

- 連携中枢都市宣言
- 連携協約の締結
- 連携中枢都市圏ビジョンの策定